

真宗大谷派
(東本願寺)

桑名別院 本統寺



ご坊さんだより

2023年

8月



正信讀をお勤めする
参詣者の様子

「念仏と 共に響ける

第57回 桑名別院 暁天講座

蝉時雨」

せみしぐれ
桑名別院輪番 長澤隆司

さて、7月13日～17日まで桑名別院において「第57回 桑名別院暁天講座」が行われました。

当講座は、昭和40年の「桑名別院 宗祖親鸞聖人七百回御遠忌」において整備された別院諸施設を、いかに三重教区の教学教化のために開放できるかという課題の中で生まれ、以後50年以上にわたり大切に受け継がれています。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中でも、一昨年はインターネットによる配信を、そして昨年は堂内の人数が密にならないよう制限することで5日間の開催を再開するなど、伝統の灯を絶やさないよう続けて参りました。

そして、いよいよこの度、制限なしの通常開催が叶いました。最終日には200名近くの方が訪れ、かつての聴聞者の総数に戻りそうな勢いで多くの方がご聴聞に参られました。汗が流れる暑さの中、堂内いっぱいになって講師共々真剣に真向かう姿、必死に生きる蝉の鳴き声……。これぞ暁天講座だという原風景に、参拝者からは来年も楽しみにしているというお声をたくさんいただきました。

開会の挨拶では、松尾芭蕉がお泊りになって一句を残されたという歴史がある桑名別院にちなみ、桑名別院輪番の長澤隆司氏は暁天講座について右記の一句を披露されました。



また、閉会の挨拶において、三重教区会議長の員辨暁氏は、暁天講座の楽しみを3つ挙げられました。1つは各方向様々で活躍されている5名の講師と出遇えること。もう1つは、パンと牛乳の偉大さです。早朝にお寺へ向かうことは子どもも大人も大変なことだけど、行くという思いが生まれます。そして最後は皆さんに遇うことです。耳が聞こえづらくなったから講座に参加しなくなったという方が「聞こえづらくても、実はその場に皆さんと一緒にいることが、尊い時間に遇わせていただいていたんだな」と気づいたそうです。

久しぶりの暁天講座という方、初めての方。各々いろいろな境遇にある皆さんが、本堂でひとつになってお念仏を称える。その姿から響いてくることがある。そこから一日が、そこから日々が始まっていく。そんな暁天講座になったのではないのでしょうか。

次号

「第57回暁天講座」開催にあたり、清掃奉仕や準備、ご案内などご尽力いただきました多くの方々に感謝を申し上げます。講座開催までの活動の様子、また5名の講師がお話された内容については、次号ご紹介させていただきます。

第42回 真宗公開講座

さる6月25日に行われた「第42回 真宗公開講座」について、前号の記事内、写真のご提供者の紹介に一部誤りがありました。「本宗寺住職」と記載されたものがありましたら、正しくは「本福寺住職」です。お詫びして訂正いたします。さて、当講座の講演内容を連載で紹介しています。前号の問題提起に引き続き、今回は仏教や浄土のことについて、いただいていきたいと思えます。

法蔵菩薩の発願とその成就 ②

石川県野々市市 常讚寺 住職

藤場 俊基

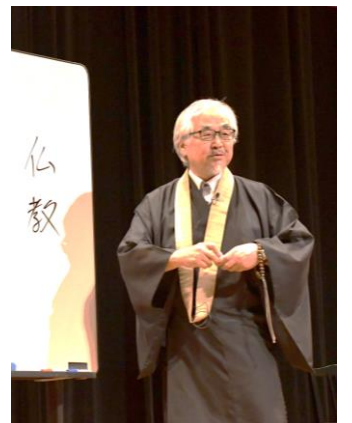
真宗大國、石川県でさえ、合掌はしても、「南無阿彌陀仏」という声が聞こえなくなってきました。

食事の際や感謝を表す時、またお願い事をしたり、謝罪の時も手を合わせますから、合掌は日常的に抵抗なくされると思います。合掌のみであれば仏教徒の「しるし」とはいえるでしょう。それは仏様や菩薩様に対する敬意を表します。ところが、様々な場面で手を合わせる必要があるならば、何も言

わずに手を合わせていると何に手を合わせているか分かりません。つまり、「南無阿彌陀仏」という念仏は、「私が手を合わせる対象は阿彌陀様ですよ」と表すことになると思います。この念仏に対しては多くの人が抵抗を感じるようになってきたように思います。それは真宗大谷派で著しく見られる気がします。

念仏が聞こえれば、真宗十派あれども、皆が真宗門徒だと疑う必要がないわけです。桑名別院の真宗公開講座に参っても、その声が聞こえてこなければ、ここはどこか別院なのか、となるわけです。いつの間にかそのようになってきている。それを取り戻していかなければと私は思います。

ですが、一度、失った習慣は中々取り戻しにくいでしょう。現に「口ナ禍で法要の形や在り方も随分変わってしまった。こんなに楽で良かったんだ、これでもありなんだと。もう戻らない気が半分くらいあります。家では密になりますから、年忌の法要をお寺でする。本堂でするのが嫌なわけではないですよ。でも、そつすると、家のお掃除をしなくてもいいし、お内仏も汚いまま、御給仕の仕方も習わなくなっていく。いろいろなことが変わっていきます。しかし、お念仏の習慣はもっと前に消えはじめていたのではないかと思います。



さて、**仏教とはなにか。**

聞かれたら答えられますか。

仏教の目指すことは決まっています。世界中の仏教徒には共通した課題があります。それは成仏。つまり仏教とは仏になる教えなのです。当たり前のことだと思ってしまう。当たり前なことで、けれども、最近は「そつだったのですか」とびっくりされる方が多いので、そのことに逆にびっくりしたりします。

仏とはお釈迦様。仏になれなくても、そつなれるような生き方をしたい。お釈迦様の生き方を自分も見習って生きていきたい。そして最後にはお釈迦様と同じようなお悟りの世界に生まれていきたい。それが仏教徒の共通課題です。意識しているかは分かりませんが、仏教徒であるということはお釈迦様を見習うということなのです。

といってもお釈迦様に会ったこともないし、お経をいただいても、どうしたらいいのかわからない。仏になることは

分かってても、その方法が分かりません。これは皆さんだけでなく二千年間、ずっと仏弟子たちが悩んだことです。私たち人間は、備わっている煩惱によって人生に彩りを添えると同時に、人と衝突したりして、苦しみから離れられない存在であります。その煩悩から解き放たれたいと実現された方がお釈迦様です。仏教徒であるということは、その生き方を見習いたいということが大きな原則としてあります。ですから、仏が説いた教えを聞いて自分が仏になっていこうとする、それが仏教の重要な特徴です。世界の様々な宗教、例えばキリスト教の中心にあるのは神様ですが、彼らは神の教えを大切にして聞きながら神様になりたいとは絶対に言わないはず。でも仏教徒は仏様の教えを聞いて私自身も仏になろうとする。これが一番大きな特徴です。ただし、どうやったらなるかは分からない。二千年間分からないままです。

そしてある時に、お釈迦様が言いたかったことはこういう事ではなかったのかと考え、言い始めた人たちがいるんですね。それがいわゆる『大乘経典』です。私たちが大切にしている『仏説無量壽経』というお経も、お

釈迦様が亡くなられて四百年経って
から誕生したと言われてます。その
ため、お釈迦様が直接その通りの説法
をしたかと言われると違うかもしれま
せん。だからといって価値がないか
ということではないのです。四百年後
にあれだけの内容のものを生み出した
人がいるわけです。その人は間違いな
く「仏弟子」です。四百年経っても、

「仏陀から聞いてきました」とまるで
最近にお釈迦様から聞いたような内容
で言える人がいたということです。そ
して、その内容に対して、お釈迦様の
言いたかったことはこういうことだっ
たのかと賛同していく人がいっぱい出
てきたのです。そしてその頃のインド
には字を書くという習慣が無かったは
ずです。言葉はあるけど文字はない。
どうするかというと賛同した人が皆、
覚えるわけです。そうして、聞いて
話してを繰り返して経典として固まっ
ていったわけです。その中で、表現を
変えたり、付け足した言葉があるかも
しれない。現に『大経（仏説無量壽経）』
はら種類残っていて、かなり違います。
本願は四十八願だと思っっていますが、
二十四のものもあるのです。三十六も
あります。逆に五十や五十一のものも
あります。基本的テーマは変わらな
い。浄土について「をテーマとして、お釈迦

様から聞いた話を説いた経典が生まれ
ました。

浄土とは何か



時々このようなテーマで話を求めら
れたり、質問を受けることがあります
が、それは「浄土がある」と思うからど
んなところが聞きたくなるのでしょうか。
死んだら極楽浄土に行くと思いにさ
れている方がおられましたら、それはそ
れで幸せな人であると思います。しか
し、浄土はあるわけではないと私は思っ
ています。実際にあるのは「浄土につ
いて説いた経典がある」ということだけ
です。だからといって意味がない、夢が
ないわけでもないと思います。

皆さん、実際にはないものをいろいろな
お話にすることがあるでしょう。魔法使
いの学校があつて、そこでいろいろな事
件が起きるといふ『ハリリーポッター』。あ
んな学校どこにもないです。でも本や映
画を見ていると、まるでその世界がある
かのように思えて、ハラハラドキドキで
きます。一緒になってどうしようか考える
ことができる。そしてみんな元気になる
わけです。

『浦島太郎』の話も皆さんご存知です
か。「竜宮城」ってあると思っ
ています

か。誰もあると思っていないでしょう。
助けた亀に連れられて「竜宮城」に行っ
てみたら、宴が開かれていて時が経つ
のも忘れて楽しんだ。重箱をもらって帰っ
てみたら、村に誰も知っている人がいな
い。もらった重箱を開けてみたら、あっ
という間におじいさんになったという話
です。「竜宮城」があるかないかはさてお
き、何か現実的なことと思えるわけです。
酒やデイスコや何やらで遊び惚けてい
て、知らぬ間に年を取っていた。皆さん
のことじゃないですか。あれが楽しい、
あれが美味しい、そんなことをしてきた
のではないですかね。そして今のようにな
っている。ということが「おとぎ話」
であっても、若い時は教訓に、年を取れ
ば身につまされる話になるわけです。誰
も「竜宮城」に行ったことがなくても、
お話からいろいろなことをくみ取ること
ができる。



まさに『仏説』もそういうことで、そ
ういう話だとして「仏陀」のお心を説き
残したのです。そして、お釈迦様の教え

を伝えていきたいと思う人がどこかに
いたことは間違いない事実なわけで
す。一人が思っていたことだったらす
ぐに消えて無くなる話ですが、何度も
何度も多くの人が伝え残したことによ
って、いよいよ文字のある文明と出会
い、これは大事な、残すべきだとして
人たちによって文章にされたわけで
す。文字になると内容が変わりにく
くなります。

私の講義も時々「大事なことを聞い
たから文字に起こしたい」という人が
います。監修して本に出すのですが、
本になると私が死んでも読む人がいる
わけです。そう思うと残したいという
意思が無ければ残さないのです。だか
ら2千年以上前にできた浄土を説くお
話も、残したいという意思があったか
ら残ったのです。文字になっても大事
だと思う人がいなくなれば誰も注目す
る人がいなくなるでしょう。お経は8
千くらいありますが、その中には読ま
なくてもいいようなお経ももちろんあ
ります。でも私たちが正依の経典とし
ている『大経』『観経』『小経』につ
いては、みんなが大事だ大事だと確認
し合ってきたわけです。だから私たち
はそこから何を学ぶかということがと
ても大事になってくるわけです。



8月の行事予定



法話（又は講演）のご案内

法要（お勤め）のご案内

◇ 人生講座 会費 500 円
 8月6日（日） 午前7時～8時
 講師 **酒井 誠**
 （伊勢市 道浄寺 住職）

※毎月第一日曜日開講。次回は9月3日（日）、
 講師 山田 有維（菰野町 西覚寺 住職）

◇ 同朋会 会費 500 円
 8月4日（金） 午後1時～3時
 講師 **長澤 隆司**（桑名別院輪番）
 毎月第一金曜日開講。
 次回 9月1日（金） 午後1時～3時



◇ 桑名別院法話のつどい
 8月13日（日） 午後1時～3時
 講師 **星川 佳信**
 （菰野町 大圓寺 住職）

◇ 親鸞聖人御命日のつどい
 8月28日（月） 午後1時～3時
 講師 **岡田 寛樹**
 （多度町 立勝寺 住職）

◇ 晨朝法話
 毎朝 午前7時 法話 別院列座
 （13日、28日の御命日は輪番）



◇ 晨朝（おあさじ） 毎日午前7時～

◇ 祥月経 毎日午前9時～
 13、28日は午後1時～、又31日は30日に兼ねます。
 また、8月のみ14日、15日の祥月経を
 12日に繰り上げさせていただきます。



他の時間に祥月経をご希望の方、
 または年忌等、各種お参りをご希望の方は
 寺務所までお問い合わせください。

◇ お夕事 毎日午後4時～

◇ 御命日のお参り
 前住上人 13日 / 親鸞聖人 28日
 前 日：午後1時より速夜
 御命日：午前7時より晨朝、午前9時より日中

◆ 御歴代御命日
 8月13日（日） 證如上人 第10代

前 日：前住上人速夜と兼ね、午後1時より速夜
 御命日：前住上人の御命日晨朝、日中と兼ねる

◆ 墓地総経
 8月13日（日） 午後1時より

* 本堂にて、境内墓地の総経をお勤め
 いたします。是非とも、お盆のお墓
 参りと合わせてお参り下さい。



お知らせ

◆ 別院寺務所お休みについて
 8月11日（金）～17日（木）まで別院寺務手続きは
 お休みさせていただきます。ご了承ください。

お詫び

先月号の7月行事予定に盂蘭盆会（お盆法要）のご案内を失念しておりましたことをお詫びいたします。
 本年は盂蘭盆会法要を7月14日（金）午後1時に速夜、
 15日（土）午前9時に晨朝兼日中をお勤めいたしました。

今後の予定

◇ 9月 7日（木） 午前8時30分～（2時間程）
 仏具のおみがき（本堂にて）
 持ち物：作業のできる服装

◇ 9月 12日（火） 午前9時00分～（2時間程）
 清掃奉仕活動（婦人会を中心に別院境内にて）



◇ 秋季彼岸会について
 9月20日（水）～26日（火）の期間、
 13時より秋季彼岸会総経お勤めをいたします。
 また、20日（水）・23日（土）・24日（日）は
 引き続き法話がございます。

真宗大谷派（東本願寺）
桑名別院 本統寺

〒511-0073 三重県桑名市北寺町47番地
 寺務所 平日9:00～17:00
 TEL (0594)-22-0652 FAX (0594)-22-0681
 メール kuwanabetsuin@gmail.com

